海外視察報告・東南アジア視察

ユニフォーム市場の成長に期待
人件費上昇など経営課題も

日本ユニフォームセンター（ＮＵＣ）は、平成28年度の海外視察を東南アジアで実施しました。チャイナプラス1の担い手として重要なポジションを占めるインドシナ半島諸国の現状を把握するのが目的でした。経済の発展が進む中で、将来に向けてユニフォーム市場も成長が見込まれる感触を受けました。

◇

石井銀二郎理事長を団長とする視察団一行18人は、11月13日から19日まで6泊7日の日程で、タイ・バンコク、ミャンマー・ヤンゴン、ベトナム・ホーチミンの順で回りました。

まず、タイは全土で故プミポン国王の喪に服している最中でした。このため街行く人々は黒の服装を纏い、商店などサービス業の方は喪章を付けて偉大なる指導者だった国王の死を悼んでいました。そんなバンコクでは中心部にある宿泊先のホテル「デュシタニ」で、ベルボーイ、男女スタッフの制服について説明を受けました。素材はシルクで通年着用とのことです。

次いでＪＥＴＲＯ（ジェトロ＝独立行政法人日本貿易振機構）を訪問。繊維関係の担当者から東南アジア経済圏の中心であるタイの経済動向及び繊維製品全般の状況について聴取。ユニフォームの市場規模は約５００億円で、日本の10分1ほどでした。更衣室が足りないため制服での通勤が多く、オフィスでの着用も少ない様子。また、企業から支給された生地を市中の仕立屋に持ち込み、制服にするケースも多いそうです。

その一方、ユニフォームにプレミアを求める傾向やアパレルブランドのユニフォーム市場参入が目立つようです。

タイではこの後、紡績並びに染色工場の現状を把握するため、東レのLuckytex（Thailand）と帝人フロンティアのＴＨＡＩ　ＮＡＭＳＩＲＩ　ＩＮＴＥＲＴＥＸを見学。合わせてタイ国内での生産状況や貿易及び周辺国の動向などについて関係性を伺いました。

ヤンゴンではシャツ工場の「ＬＵＴＨＡＩ（ルータイ）」を訪問。資本金１０００万ドルで、総面積は２４０００平方メートル、建物１４４００平方メートル。訪問時の従業員は８５０人。平均年齢は22歳。作業者の平均給与は月１２０ドル。設備は縫製工程がミシン６２６台、プレス他54台、仕上げ工程は１０４台。昨年、目標にした生産量は65万枚でしたが、訪問段階での日産量は４０００枚程度になっていました。今後の年間生産目標は３００万枚に置いているそうです。

ミャンマーではさらに婦人子供服・紳士服工場のＡＩ　Ｇａｒｍｅｎｔを見学。韓国系資本の企業で、従業員は１３００人。平均年齢24歳。賃金は1日３６００チャット。月産能力はスーツ5万着、ジャケット12万着、コート4万着、パンツ20万本。主要な取引先は欧州と日本です。ミャンマー国内では規模、縫製レベルとも上位の工場だそうです。第2工

視察団名簿（敬称略）

社　名	氏　名
団長 （公財）日本ユニフォームセンター	石井　銀二郎
副団長 （株）髙島屋	小野田　明宏
副団長 （株）ボンマックス	織戸　正彦
ツカモトユーエス（株）	佐藤　貴一
（株）チクマ	乗杉　研一
東レ（株）	出水　修
（株）三景	澤津　順司
清原（株）	巻渕　大
（株）マーケテック	水本　未央
（株）ユニコ	小椋　豊樹
イズミ産業（株）	松田　浩一
（株）ユニウェル	田伏　賢司
（株）アイリス	大隅　友樹平
日本毛織（株）	小山内　聡
（株）ダイイチ	鈴木　健太
カワボウ繊維（株）	味岡　浩
東洋物産（株）	持田　理恵
（公財）日本ユニフォームセンター	桑木　誠

場では作業向けユニフォームやニット製品の縫製もしています。同地では他にパンツ、ニットウエアの工場Thiri Sandar Garment and General Tradingも視察。設立当初は、縫製の技術指導でJICA（独立行政法人国際協力機構）による支援を受けたそうです。国内では銀行を対象にユニフォームを売込み中とのことでした。

ベトナムではホーチミン市周辺にあるユニフォームの縫製工場2か所を視察。伊藤忠商事、ボンマックスにご協力頂いたBENLUC FACTORY BRANCH（UNIMAX SAIGON第2工場）とツカモトユーエスのご紹介による婦人服工場WISTERIA（ウィステリア）です。

UNIMAX SAIGONはユニコ70％・ボンマックス20％・伊藤忠商事10％の出資比率で1996年6月に設立された企業です。ボンマックスが蓄積したユニフォームのデザインと生産・販売力及びユニコ，伊藤忠の資金力・海外情報力・物流・貿易ノウハウを優生結合し誕生しました。従業員278人（16年9月末）の本工場に加え、第二工場（342人＝同）、第三工場（114人＝同）があります。

WISTERIAは01年4月の設立で、資本金64万USD。社員数は400人（16年11月）で、うち縫製工場は290人。ブラウス、ズボン、ジャケット、ドレスなどの婦人服6ラインと肌着の2ラインを配置。月間の生産能力は2万～2万5000枚。レディスファッションは100％日本向け。主要な取引先は百貨店、セレクトショップとの説明を受けました。

ホーチミンでは両工場訪問の間に、昨年7月末に開店したばかりのホーチミン高島屋を見学しました。経済成長に伴って発生した高品質志向や新たな需要に対する日本式サービスの模様を把握するためです。店内は地上3階～B2の百貨店エリアと5階～B2の専門店エリアで構成。そんな中で日本の高島屋と同じ制服姿が目立ちました。

東南アジアの縫製業は年々、成長を続けています。その一方で厳しい現実も垣間見られます。最低賃金の上昇による利益圧迫、安定したテキスタイルのリーズナブル価格による適時・的確な購入、生産品種プロダクトミックスでの安定稼働――などは喫緊の課題と言えそうです。

JETRO Bangkok（タイ）

Luckytex（タイ）

Luckytex（タイ）

THAI NAMSIRI INTERTEX（タイ）

LU THAI（ミャンマー）

ホーチミン高島屋（ベトナム）

BENLUOPACTORY BRANCH（ベトナム）

WISTERIA（ベトナム）

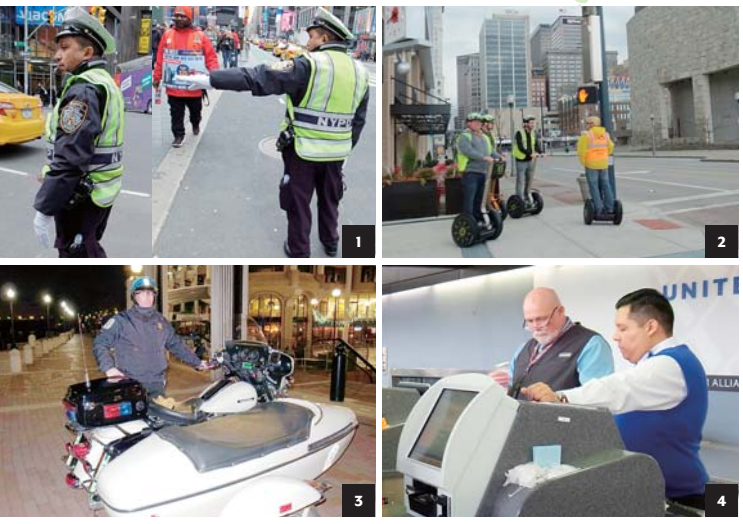
REPORT no.1

海外視察報告・北米のユニフォーム事情

NY消防局、レンタルユニフォーム企業、オフプライス業態など アメリカのユニフォーム事情とアパレル市場の最前線を探る

日本ユニフォームセンター（NUC）は今春、平成28年度として2度目の海外視察を北アメリカで行いました。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、特殊ユニフォームの機能性・安全性及び防災に対するセキュリティ面の重要性が一段と高まっています。

そこでこの分野で先端を走る北米の専門機関や高いシェアを占めるレンタルユニフォーム企業などを訪問。さらに小売業界の変貌ぶりも含めて、将来に向けた取組みの把握に努めました。



アメリカの街中で見かけたユニフォーム

1. ニューヨークにて。NYPDロゴ入りの安全ベストを着用する警察官　2. シンシナティにて。安全ベストを着用しセグウェイで移動中　3. シンシナティにて。サイドカー付きのハーレーに乗る警察官　4. リバティ国際空港にて。ユナイテッド航空の地上職員　5. 集合写真（UniFirst社にて）

視察団員名簿

（敬称略）

団長	（公財）日本ユニフォームセンター	石井 銀二郎
副団長	ツカモトユーエス（株）	西村 隆
	イズミ産業（株）	今泉 善徳
	（株）チクマ	山中 陽介
	日本毛織（株）	小田切 晋平
	清原（株）	巻渕 大
	（株）マーケテック	水本 未央
	（株）アイリス	大隅 友樹平
	（株）ダイイチ	鈴木 健太
	（株）ダイイチ	瀬川 智光
	（公財）日本ユニフォームセンター	清水 徳子

in NewYork

服種400にも上るNY消防局の視察

視察団は石井銀二郎理事長を団長に、一行11人で編成。2月26日から3月4日までの6泊7日の日程で、ニューヨーク(NY)を皮切りにシンシナシティ(オハイオ州)、ダレス(バージニア州)及びワシントンの各都市を巡回しました。

特殊ユニフォームについてはNYで、消防士及びスタッフ合わせて約1万6,000人(2015年)と全米最大のニューヨーク市消防局の施設を訪問。防火服などの装備品とその管理体制を視察。同局及び調達・管理を行うユニフォーム・アパレルメーカー、VF Image wear社の担当者から説明を受けました。

消防局が現在使用中の服種は、防火服の他に儀礼用のドレスウエア、テスト中のステーションウエア、特殊任務用のウエア、テクニカルレスキューウエア、救急隊(EMS)、海難救助用など幅広く、冬と夏の制服を合わせるとアイテムは400種にも上るそうです。調達は50社ほどのサプライヤーから受けているとの説明でした。

防火服はNFAP規格に沿った製品で、Honey Well社の「Morning Pride」ブランド。ヘルメットからブーツも含めた一式の重量はおよそ50キロになると言います。基本的に一人2着の支給で、通常2年程で交換されるそうです。交換とメンテナンスはVF社の物資補給センターの対応となります。

訪れた際、Tencate社が開発したステーションウエアが、研究開発管理セクションで試着されていました。試着品は青の長袖シャツ、紺のTシャツとパンツの組み合わせ。全てTecasafe®という難燃素材使い。長袖のシャツは、腕が動かしやすいよう袖肩形状を採用するなどの工夫があります。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1, 2. テスト着用中のステーションウエア。素材はTencate社のTacasafe®。Tシャツは反射プリント入り　**3.** 現行のステーションウエア。衿章、ネクタイ、タイピンなども展示　**4.** 救急隊用の防火服。2006年製と古く、背中の文字は剥がれている　**5, 6.** 防火服(バンカーコート)。裏面はデジタルカモフラージュ柄で背面裾にネーム入り　**7.** ネームは写真後方のミシンで随時縫い付ける　**8.** 一般用ヘルメット／手袋。手袋のインナーは透湿防水素材　**9.** 救急隊用のヘルメット。救急隊のシンボルと蛍光反射剤入り　**10.** 海難救助用フローティングブルゾン

in Cincinnati, Dallas

米国では今や主流 レンタルユニフォーム

レンタルユニフォームの視察はまず、シンシナシティのCintas Corporation社で行いました。1929年の創業で、同業種では従業員約3万人にもなる全米1の企業。カタログに掲載されているレンタル用の製品やラボで使用している品質試験機材などレンタルオペレーションの紹介を受けました。

同じレンタルユニフォームではダレスで、UniFirst Corporation社を訪問。マサチューセッツ州ウィルミントンに本社を置く、アメリカ企業。この分野でのシェアは全米2位で、従業員は約1万2,000人。収益の90%はレンタル。

今回、訪ねたのは北米とカナダにある約240か所のうち、ワシントンD.C内のレンタル運用・クリーニング施設です。ユニフォームの他にタオルとエントラスマットも扱っていました。ユーザーからのユニフォーム回収は、1週間に1回、配送を担当したドライバーが行います。配送は、着用者のロッカーに、1週間分を届けるシステムです。施設に集まった洗濯前のユニフォームは、洗濯方法や種類別に色分けした袋に入れ、計量した後に吊り上げ、工場内を空圧で移動させます。医療用のユニフォームは細心の注意を払い、作業は1日の最後にまとめて行っています。洗濯機の容量は約400キロ。天井の袋から直接機械に投入されます。

洗濯と乾燥が終わったユニフォームは、ハンガーに掛けられ、工場内に張り巡らされたハンガーコンベアで、華氏260℃(摂氏127℃)のスチームトンネルを2分間通します。プレスして整えられたユニフォームは、1着ずつバーコードをスキャンし、出荷用のラインに仕分けされます。また、出荷前は目視で最終チェックした後、1人1週間分のユニフォームをビニールでパッキングして備えます。

レンタルユニフォームの大手両社は社風、規模とも違います。しかしビジネスモデルは、①洗い ②物流 ③経営の多角化――で共通する部分がありました。

北米のビジネスモデルをそのまま日本に導入しても通用しないと思われます。レンタルに対する意識に、文化も含め米国とは違いがあるためです。コストパフォーマンス、清潔感・潔癖感など、様々な課題を克服する必要があります。日本のレンタルユニフォームの在り方については、今回の視察を契機に国内の実情調査を行い、NUCとしても研究を掘り下げる方針です。

Unifirst社の
レンタルオペレーション
入庫から洗濯まで

洗濯・乾燥

▲スチームトンネル。2分間掛けて通過する

洗濯・乾燥

▲工業用洗濯機。ユニフォームは袋から直接洗濯機の中に投入される

入庫

▲吊り上げられた袋の中身は洗濯前のユニフォーム

▲ハンガーコンベア。頭上を洗濯済の製品が移動する

▲洗濯機の正面に位置する乾燥機。
洗濯後は取り込み機材を使用し乾燥機に移動

in Washington, DC

台頭するオフプライス業態

ユニフォーム関連以外では、小売事業の新形態と新たなファッショントレンドを探った他、Toray Industries (America), Inc.社、伊藤忠プロミネント社を訪問。両社からそれぞれ事業内容や市場動向などの説明を受けました。

Torayでは、カーボンファイバーに寄せる期待の大きさと、スポーツアパレル市場を巡る動きを聞きました。小売りベースの市場規模は15年で約6兆円。スポーツアパレルとファーストファッションのスポーツウエアラインが活発だそうです。トレンドでは運動競技と余暇を合わせた造語のアスレジャーが牽引役と話していました。

▲Toray Industries (America), Inc.社にて講義を受けた

伊藤忠で、米国のアパレル市場の成長見通しについての説明を受けました。フルプライス(定価販売)業態のアパレルが沈んでいるのに対し、有名ブランドのシーズンアウト商品を低価格で扱うオフプライス業態の台頭が目立つそうです。Eコマース市場の規模は、14年に3,050億ドルを占め、今後も15%前後の成長率が見込めるようです。

小売店はNYにあるGalaxy Army Navyのマンハッタン店で、米軍のユーズド衣料、装備品、アーミー系のオリジナル商品などを確認。米軍には退役後に被服を返却する規制がないため、階級を問わず中古店に売却する例が多いそうです。シンシナシティでは、高級百貨店チェーンのSaks Fifth Avenueが運営するオフプライス専門店「OFF5TH」を訪問。装飾性のない内装で、最大90%以上のオフプライス商品がギッシリ並んでいました。従来型の小売業は米国でも不振続きの中で、「Off Price事業」の台頭ぶりが際立ちました。

▲伊藤忠プロミネント社にて講義を受けた

梱包

▲ビニール梱包。
1人分をビニールでパッキング

スキャン

▲クリーニング設備の稼働管理用モニター。
設備の稼働状況の管理をおこなう

▲梱包前のバーコード読取り。
1点ずつスタッフがスキャンを行う

◀バーコード。プリント／熱圧着タイプ

プレス

▲シャツのプレス。人体プレス機を使用

▲ズボンのプレス。
人体プレス機とズボンプレッサーを使用